



栗原小だより

新座市栗原 1-5-1 ☎042-473-7070

H P <http://www.c-niiza.ed.jp/e-kurihara/>



～学校教育目標～
よく考え学ぶ子
心のゆたかな子
たくましい子

令和4年度3月号
令和5年3月1日

令和4年度を振り返って

校長 大井 敏彰

【子供よし 先生よし 教育環境よし】

2月9日(木)新座市教育委員会・南部教育事務所学校訪問がありました。県や市の教育委員会の方々が一泊訪問し、参観した本校の教育活動に御指導をいただくものです。この日は指導者の方々から、以下のような「褒め言葉のシャワー」をたくさん浴び、校長冥利に尽きる一日になりました。

- 4年生の歌声で涙が出そうになった。
- 児童が先生の話をよく聞いている。先生方が児童の話をよく聞いている証拠である。
- ICTによる教材提示に優れた先生がたくさんいた。大きな可能性を感じる。
- 体育の授業が素晴らしい。
- 子供の集中力が素晴らしい。先生を目で追いながら話を聞いている。
- 教室や廊下の掲示物など学びにふさわしい環境が整っている。
- 先生の褒め言葉や認める言葉が多く、温かい雰囲気を感じられる。
- 子供が主役の授業が展開されていた。



【R5.2.9 3年2組国語の研究授業から】

みなさんは、「三方よし」という言葉をご存じでしょうか。江戸時代に活躍した近江商人の考え方を表した言葉で、商売は「売り手」と「買い手」だけがよければいいのではなく「世間＝社会」を含めてよいことを願う「売り手よし・買い手よし・世間よし」の精神を意味するものです。学校は商売ではありませんが、「子供がよければいい」「先生がよければいい」だけでは十分ではありません。教育環境が整って初めて「学校よし」といえるのではないのでしょうか。

今回の学校訪問では、「子供」「先生」「教

育環境」をバランスよく評価していただいたことに、大きな成果を感じました。

【令和4年度を振り返って】

令和4年度は、コロナ禍3年目でありながらも、社会情勢が大きく変化し、教育活動の実施において様々な場面で学校独自の判断が求められる年となりました。その中で大きく3つの成果を実感しています。

①積極的な学校行事の実施

林間学校、修学旅行、くりっこまつり、運動会、音楽発表会、持久走大会など、学校行事を積極的に実施してきました。様々な感染防止策を講じながらも、学校行事を実施することで、子供たちの成長を確認することができ、何より子供たち自身が学校生活に向かう意欲の向上が見られました。

②ICTの効果的な活用

タブレット端末でキュビナ、ロイロノートを活用しながら、個に応じた授業や学び合いの授業がよく見られるようになりました。また、オンライン授業の実施により、各ご家庭にもご協力いただきながら、子供も先生も遠隔授業を実施できるスキルが身につきました。今後もICTを「効果的に活用」しながら学びの充実に努めます。

③保護者・地域との連携の充実

「栗原小の教育環境」は保護者・地域に支えてもらっていると言っても過言ではありません。学校応援団による校内掲示、月1回のあいさつ運動や読み聞かせ、家庭科や算数九九の学習支援、校内花壇の整備、また地域の学校農園での農作物体験など、保護者・地域との連携の充実により、教育環境が温かい雰囲気に包まれています。

当然、課題もありますが、今年度の成果に目を向けながら、次年度に向けて、学校に関わる誰もがキャッチフレーズにある「学校大好き」と思える学校づくりを推進してまいります。令和4年度も残り1ヶ月となりました。引き続きご理解とご支援をよろしくお願いいたします。